

# 平田牧場などを視察

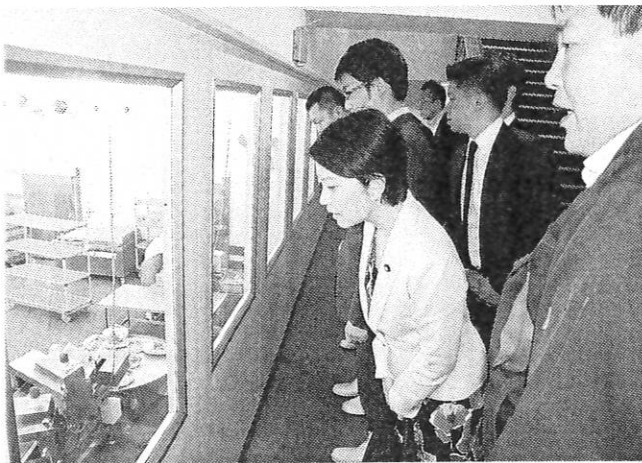
首都圏大手企業  
若手経営者ら 地域経済へ理解深める

首都圏の大手企業の若手経営者らによる勉強会「生ハムメロン会」の視察研修会が30、31日の1泊2日の日程で庄内地方で行われ、地元企業や研究機関の視察、企業・農業の経営者との交流を通して、地域経済への理解を深めた。

この勉強会は約1年前、大沼穂穂参院議員の呼び掛けで始まった。月1回のペ

ースで集まり、異業種交流を深めながら、国の食糧政策を中心にした政策提言などにつなげる狙い。会員は15人ほど。

今回は初の本格的な視察研修で、参加者は大沼氏のほか、伊藤ハムの伊藤功一取締役、青果物仲卸の船晶の関野裕社長、物流の鈴木健一郎社長、みそのハナマルキの花岡周一郎常務、シューマ



イの崎陽軒の野並晃常務、大昭和紙工業の齊藤了介会長、総合食

品の久原本家の河邊太郎取締役の8人。

初日の30日は庄内空港から庄内入り。酒田市みずほ二丁目の食肉・外食「平田牧場」本社で、新田嘉七社長から国内の飼料用米生産をけん引する取り組みなどを聞いた後、同市大宮町一丁目の同社ミートセンター（後藤喜美雄センター長）で、品質や安全性に配慮した枝肉加工を見学。「平牧金華豚でシューマイを」といった話題も上った。

大沼氏は「会員は食品関連の企業が多い。庄内は『食の都』であり、こうした視察を通じて庄内の魅力を対外的に発信してもらったり、地元企業との交流に発展すればうれしい」と話した。

その後は鶴岡市の慶應義塾大先端生命科学研究所、合成クモ系繊維のスパイバールを視察、同市湯野浜のホテルで地元の若手企業経営者と懇談した。31日はクラゲの展示数世界一の加茂水族館を見学後、同市福田の農家民宿「菜あ」でJA鶴岡メロン部会と懇談した。